

越後連山と、雪解け水が集まる大河・阿賀野川

ごん八の一年

ひとひらの雪からはじまる「水の物語」その2



〈新米コシヒカリ出荷特別号〉

2012年(平成24年)9月19日 水曜日
発行/坂井ファームクリエイト
発行者/坂井孝一
〒950-1133 新潟市江南区嘉木12
TEL 025-280-4300
FAX 025-280-3400
☎ 0120-051858 (おこめはこんぱち)
E-mail:sfc@sakaif.jp
http://www.sakaif.jp

低く垂れ込めた雪雲が越後連山にぶつかり、冬の到来を伝える



11月

◀鉛色の空を行く冬の使者、白鳥



2月

◀木々の根明けが進み、雪解け水が川を下っていく



5月

▲一年で一番田んぼが変化する季節。数日で薄緑の田植え田に変わる



▲苗代では濃緑に育った苗が、本田での田植えを待つ



4月

▲農民たちが待っていた雪代(ゆきしろ)の到来。上手の田んぼから水が行き渡る。黒色の土に水が流れ込み、空の青色を映す

里山では、孟宗竹が雪解け水をたっぷり吸って天を目指して伸びる



9月

▲20年来の老戦友であるコンバインで刈り取り

彼岸の地蔵講で収穫感謝



6月

▲稲は日一日と色濃くなって伸びる



8月

▲出穂から実入りで、お辞儀をしながら黄金色に変化していく

紙面から

新米「ごん八」いよいよ出荷

○ひとひらの雪からはじまる「水の物語」

ごん八の一年

農家持ち寄り市場 探彩

- 米作り機械化近昔備忘録
- ごん八ギヤラリー
- 子羊ただ今7匹!
- 大根クラブ準備万端

9月25日 発送!
新米「ごん八」
いよいよ出荷!



11月

また同じように▶晩秋に雪化粧する連山



米作り 機械化近昔備忘録



今は昔…
春の訪れと共に小さな沢から流れ出した雪解け水は、いくつかの沢と合流し、流れを早めて貯水池へ。道の端に置いた古い発動機が黒い排煙を吐き出しながら回り、長い平ベルトの先にある水路の下からハーチカルポンプがゆっくりと揚水を始めると、
一方、食糧増産を担う国営の大規模排水事業で乾田化され、規則正しく並んだ農地を数台の歩行耕耘機が、トントーンと乾いた音をたてながら鉄の爪を大地に入れ、耕進していく。貴重で高価な農機具だが、人力の何倍もの強さで耕すのを見て共同購入したので。夜明け前から夕方まで交代での作業。上がり酒では父達の機械講釈で盛り上がる。
代水が入った田んぼを、牛馬の代わりの耕耘機の後ろから、木の

板が草を下に沈めながら泥をかき混ぜ、平らに仕上げている。
屋敷近くの苗代田では保温油紙で暖めた早苗が4寸にも伸びていた。早乙女らの来る前に苗取りを済ませておく。膝まで水に浸かりながら、フワで苗を縛り、そのまま水に並べて浮かべる。40間(72m)の向こうまで張った細縄を目印に、四角または八角の細木で組んだ田植え枠を押す。曲がらないよう、隙間が出ないように慎重に。木枠が交差したところが植える場所の目印。それをより早く押すのが若手の腕の見せ所だ。
片や早乙女らは5尺5条の枠の跡を、左手で抱えた苗の束から2〜3本ずつ選り分けて右手に送り出しながら植え、泥濘の中、足を交互に進める。複雑な作業を流れるように進めて、1反歩(300坪)は6条を植えて648(300坪)を植えて二人前と言われた。田植えは若い男女の出合いの場でもあったと聞く。
笹団子を作って振舞って休む3日間の「さなかり」のあとは、いよいよ「田の草取り」が始まる。当た

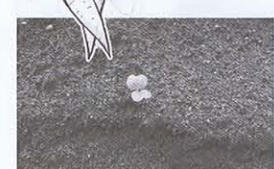


お酒と温泉をこよなく愛し、生涯、農業職人でした。坂井文男 享年82歳。5月に天国へと旅立ちました。その働きぶりが「まるで青年のよう」なスタミナとパワーを感じさせる事から、まわりから「坂井青年」の愛称で親しまれていました。私の誕生を誰よりも喜び、大きな愛情で成長を見守ってくれました。今はまだとても寂しいけど、みんなで精一杯生きていくから、天国から見守っていてね。(涼)



り前だが完全なる有機農業での一番の問題は雑草取り。すこし勢いで取っても取っても生えてくる。手押し除草機も含め、お盆までに3〜4回の除草が終わわり、ようやく秋の準備だ。ハサ場に並んでいるハサ木に、竹と縄を渡して棚を作る。彼岸が終わったら早生種の稲刈りだ。
ノコギリ鎌で五株五株の一束を縛り、半分くらいに置いていき、あとで田船を押してハサ場まで運ぶ。木の脚立を使うハサ掛けの投げ役は子供の仕事。一束ずつ掛け手のお爺さんに投げていく。暗くなるまでの根気のいる仕事。秋の好天が続いたらハサ入れ脱穀作業が始まる。ハサ入れの楽しみは、オート三輪のトラックの荷台に高く積んだ稲束の上に乗り、隣家の甘柿をもぎ取って喰うこと。コマが入っている甘柿が何本も並んでいた。
作業場のモーターを使う脱穀機は共同使用。深夜作業になることもあり、裸電球の下、汗とゴミだらけで居眠りしたことも。脱穀の後には粉すり、選別をして麻袋60キロを詰めて、ようやくお米の出荷となる。
米俵一袋がとも高価で大事にされていた時代の話。

「大根クラブ」準備万端! 66うね貸し出します!



大根の赤ちゃん! 種まき3日で発芽。雪下で育つ大根は甘くてとってもおいしいです。
TEL 025-280-4303 (探彩まで)

春のジャガイモ収穫体験「ポテトクラブ」が大好評に終わり、「大根クラブ」もつっちゃう? ということで始動! 1うね(13メートル)をお客さまに貸し、成長を見守りながら年末〜翌2月をめどに収穫してもらおう企画です。

ごん八ギャラリー

3月14日ホワイトデー。
1匹の羊の呼吸が荒くなりました。今期初の出産が始まりました。その後2カ月間出産ラッシュ。今期は合計7匹の赤ちゃんが誕生しました!

ごん八と一緒にお届けします!

坂井ファームの手つき餅
(12月~1月)

こんな便利な世の中で、今どき珍しい手つき餅です。若手が粘りながら腰入れてつくっていますから、粘りとコシが違います。正直、評判いいです。贈答用セット(白もち4袋+豆もち2袋 化粧箱入り/2,360円)もおススメ。

坂井ファーム 農家持ち寄り市場 探彩

MAP 注目! 探彩の案内板

新沼市街、信濃川、信濃川大橋、GS、JA倉庫、ひらりの店、探彩園、坂井ファーム、旧白根、旧小瀬戸、信野木団地、女池、セシール、信野木中学校、高尾線が自印!

編集後記

●この春、羊の出産ラッシュであった。今草を食んでいる7匹の子羊たちから採れるバーজনワールをどう使おうか? 昔はホームスパンにしたそう…。

●父亡き後、母と話をする機会がめっきり増えた。タイムマシンに乗って過去から現在までを自由に行き来する彼女との語らいは、ごん八家の埋もれていた事実の発見でもあるが、最近の口癖は「(家族が)小勢(こうぜい)になったもんだ」と嘆く。増えたらうれしいのだけれども…。(孝)

●祖父亡き後、私の妊娠が分かった。「じいちゃん生まれかわりだね」と話す。30歳目前にして駆け込み出産(予定)だ。じいちゃんは私の行く末を心配していたから、入院先の病室で彼と婚約報告をしたときは、本当に喜んでた。最後の最後に安心させてあげられたことが、唯一のじいちゃん孝行だったかもしれない。雪多い如月には私も母だ。もれなく新しい「じいちゃん」も誕生する。命のパトニリーは何とも儚く尊い。「小勢になったもんだ」と嘆く祖母に精一杯対抗してこれからもポンポン産む決意だ。(涼)

ワンコインセット

農家持ち寄り市場 探彩 毎朝出荷される朝どり旬野菜を「ごん八米」と一緒に発送します。

大好評 500

お米の料金プラス500円で、探彩オススメの旬野菜や果物をお米と一緒にお届けするワンコインセットは大好評! 毎月2〜5種類の野菜をお届けしています。

「手つき餅」「ワンコインセット」ともに、ご注文は注文用紙またはお気軽にお電話ください。

ご注文・お問い合わせ先
坂井ファーム TEL025-280-4300